

34

特 251

647

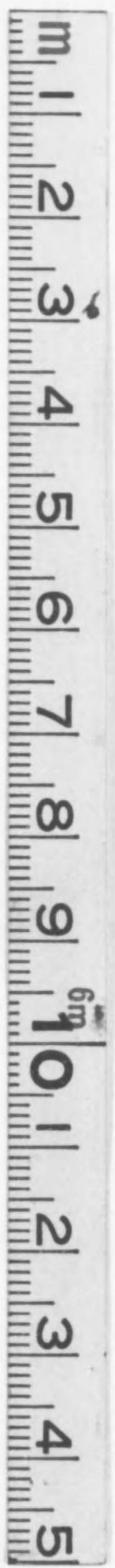
演 集 第 十 五 號

夏 季 講 座 講 演

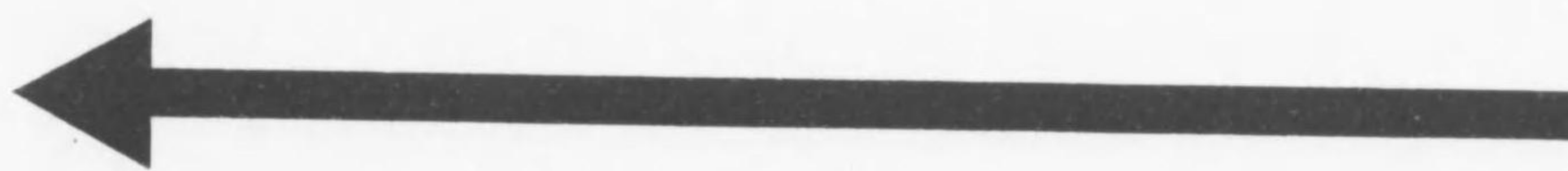
海 軍 中 佐 梅 崎 外 之 助 氏 講 演

最 近 の 海 洋 政 策

法 財 人 團 京 都 府 國 防 協 會



始



特251
647

本編は昭和十一年七月二十八日日本市府立第一高等
女學校に於ける本會主催夏季講座の講演速記にし
て講師の校閲を経たるものなり

昭和十二年三月

財團 京都府國防協會
法人



佐中崎梅の中演講

最近の海洋政策

海軍軍事普及部委員

海軍中佐 梅崎 卯之



御紹介に預りました梅崎でございます、題しまして「最近の海洋政策」と申すのでありますが、海洋政策と申しますものは、事新しく近頃出来たものではないのであります、既に御承知のやうに、四百年前から日本の人達殊に倭寇なんと云ふやうな、亂暴な人が南の方に盛に發展致して居りました、其後も相當出たのであります、最近特に海洋政策が喧傳されますのは、私一個の考としては、日本の國情己むを得ず海外に發展しなければ行詰つて来る、昔のやうに單純に考へて海外に出るのでなく、國家として其生存を確立する爲に己むを得ない政策であると云ふ風に吾々は考へて居るのであります

御承知のやうに、日本の地理上の關係は南北に細く連なつて居ります、それから元來日本人其者が海洋性の國民でありまして、方々に發展する性能を持つて居りますので、私は此海洋發展と云ふことは、歴史的に考へても、且又地理的に考へても、是は日本の宿命であると云ふ風にも考へられると思

ふのであります。

然るに最近否でも應でも海外に發展しなければならんやうになりましたのは何の爲かと申しますと私共は是は日本が最近非常な發展をなしつつある、それに對しまして各國が非常なる重壓を加へて居る、其結果ヂツとして居つては壓潰される、そこで已むを得ず最も抵抗の少い、最も都合のよい方面に飛出すのが海洋發展であると云ふ風に考へられるのでございます。

元來最近の國際間のいろ／＼不安の状況が續き、又進んで居りますが、其大本は御承知のやうに現狀に満足して居る國々が現狀を維持しようとする動向と、之に對しまして、現狀に不満足な國々が現狀を打開しようと云ふ一つの運動、是が兩方對立しまして此國際不安を醸しつつあるのだと云ふ風に考へられるのであります。

現狀に満足して居る國は英吉利、亞米利加、佛蘭西、露西亞、和蘭と云ふやうな國々であります、斯う云ふ國は何とかして自分の現在の繁榮を維持する爲に現狀を續けて行きたいと云ふので、御承知のやうに、世界大戰の結果ヴェルサイユ條約、其後は國際聯盟或は軍縮條約、軍縮會議、日本だけに取つて見ますと、支那に對する日本の發展を抑へる爲に九ヶ國條約なんかと云ふものを作つて居ります、斯う云ふ條約で以て、發展しようと云ふ國を抑へ付けて居るのであります。

然るに現狀不滿の國々は、日本を筆頭に、獨逸、伊太利、斯う云ふ國々は到底此儘國家の存立は期待出来ない、ドン／＼さう云ふ拘束された條約を撥返さうとして居る、日本に取つて申しますと、滿洲事件以來上海事件につきまして滿洲國の獨立、それから北支問題もありますが、是は吾々としては正當の自衛權の發動と云ふやうに言つて居りますが、之を現狀維持國に言はすと、九ヶ國條約違反であると言つて居る、相當の理窟はありますが、何と言つても日本は是から飛出し行かなければ生きて行けない、吾々は之を自衛權の發動であると云ふ風に考へて居るのであります。

それから引續きまして、日本は滿洲事件の爲に聯盟を脱退し、今まで世界の國々が頼みにして居りました聯盟の組織に罅を入れ、更に軍縮條約を破棄致しまして、御承知のやうに、本年一月十五日には軍縮會議から脱退致しました、最近喧傳されて居ります大陸政策並に南進策、南洋政策、斯う云ふものは亞米利加、英吉利、佛蘭西、和蘭あたりに非常な脅威を與へまして、彼等は何とかして日本を抑へなければならんと云ふ風に考へて居るのではないかと思ひます。

獨逸に就て申しますと、ヴェルサイユ條約で定められたいろ／＼の軍備上の制限を解除して再軍備をやりだした、さうして御承知のやうにヴェルサイユ條約で非武裝地帯と定めたラインランド方面に軍隊を進めると云ふ有様であります、更に澳太利、伊太利を打つて一丸とする結合が段々進んで参り

まして、斯う云ふものが現状維持國が作りました歐洲平和保障の條約を撥返して居るのであります。

所が獨逸、伊太利あたりの運動に對して歐羅巴、特に英吉利は、最初は掛聲こそ大きくありました
が實行手段ではなか／＼抑へない、是は私共の觀測に依りますと、元來英吉利は非常に利己的の國で
ありますので、こゝで歐羅巴でいろ／＼の力わざをすると、歐羅巴が紛糾して結局得る所はない、そ
れで歐羅巴はそつと此儘にして置いてさうして、英吉利の最も大事な關心を持つて居るのは東洋、つま
り太平洋に伸びて行かなければならんと云ふのが英吉利の考へではないかと思ふのであります。

従つて日本に對する英吉利の態度は全く極めて非妥協的であります、表面こそうまいことを言つて
居りますが、裏面に入つては洵に憤慨に堪へないやうな政策をドン／＼進めて居ります、御承知のや
うに經濟上の壓迫でも何でも日本を目標にして居る、オリンピックツクの問題でも變にこぢれて居ります
英吉利は日本に對して敵意を持つて居ると云ふ風に私共は考へて居ります。

それから亞米利加であります、是が亦歐羅巴問題に付ては殆ど手を出さないと云ふ前からの流儀
であります、不幸にして此前の世界大戰にはウツカリ英吉利の宣傳に乗つて大戰に飛込みましたが、
其後聯盟にも入らない、御承知のやうに今まで亞米利加は海洋の自由と云ふことを傳統的の國是と致
して居つたのであります、海洋の自由と云ふ所から英吉利にも獨逸にも戰爭中でも物を賣る、それ

が中立違反になれば兩方の國を敵にしてもよいと云ふのが亞米利加の今までの遺方であつたのであり
ます、所が最近はそれをやめまして、伊太利とエチオピア問題が起つた頃から中立法と云ふものを作
つて居ります、詰り歐羅巴戰爭には中立を維持する、どちらにも加勢しない、海洋の自由と云ふもの
は捨てる、斯う云ふのであります。

そればかりならまだよいのですが、斯う云ふこともあります、是は一寸名前は忘れましたが、此中
立法は東洋方面に於て某強國が戰爭する場合には武器彈藥を一切其國には送らない、併ながら相手國
には送る、斯う云ふことを言つて居ります、なんのことが分りませんが、要するに日本が若し何處かと
戰爭する場合に、日本には武器彈藥を送らない、相手國には送る、要するに東洋方面に對しては海洋
の自由と云ふものは堅持して居ると云ふ風に吾々は考へて居るのであります、従つて亞米利加も歐羅
巴には喙を容れないが、日本の事になると眞剣に食つてかゝると云ふのが亞米利加の遺方でありま
す、斯様に考へて見ますと、各國は日本に對して洵に遠慮なしにいろ／＼の壓迫を加へて居る、どう云
ふ壓迫であるかと云ふと私共は是は四つに觀て居るのであります、第一は列國の武力壓迫、列國が盛
に兵備をやつて居りますが、是は悉く日本を目標にして居るのであります、第二は政治的の壓迫であ
ります、日本を孤立に陥入れんが爲にいろ／＼の工作をやつて居ります、英米が提携して日本にかゝ

らう、或は佛蘭西と露西亞が一緒になつて露西亞が東洋に出ることを間接に受けようとして居ります更に英吉利と露西亞が近頃協定を結んで露西亞の極東艦隊を増加することを許して居る、或は支那に對して亞米利加、英吉利が一緒になつていろく日本の經濟的伸張を邪魔する、又政治的工作を邪魔すると云ふやうなことをやつて居ります、詰り日本を孤立に陥れんが爲に、各國は殆ど申合したやうに共同政策をやつて居るやうな氣がするのであります、第三には經濟的の重壓であります、御承知の通り、日本の安くて良い物が到る處で締出されて居ります、第四には人種的壓迫であります、詰り日本は毎年百萬人の人口が殖える、どうしても是は海外移民に依つて解決しなければならぬのに、到る處日本人入るべからずの政策を取つて居るのであります、此四つ、武力、政治、經濟、人種上の重壓と云ふ風に考へますが、斯う云ふ壓力がありますので此儘ヂツトして居れば日本は發展が出来なくなる、之に對抗して行かなければ日本は生存を確立することが出来ないと云ふ風に考へて居るのであります。

勿論此重壓と云ふものは、先程申しましたやうに、日本がおとなしくして居れば起らなかつたかも知れませんが、併ながら日本と云ふ國はヂツトして居られない、隆々として發展途上に在りますので斯う云ふ抵抗が起るのも已むを得ませんが、之に打勝つて行かなければいけない、私が只今から申上げ

やうと思ひます海洋發展策と云ふものは、此重壓の結果已むを得ず起つて居るのである、或は海洋發展策と云ふものを日本が計畫して居るのは斯う云ふ重壓から來て居ると云ふことも言へるのであります、何れにしても、海外に出なければ國家の生存が出来ないと云ふ風に考へるのであります。

今申しました四つの重壓の中、特に海軍に關係して居ります點を是から申上げたいと思ひます、先づ列國の武力の重壓に付て申上げますと、各國各々日本に對する準備をして居りますが、其中で綜合致しまして各國が共同致しまして日本に重壓を加へたと云ふ一事は軍縮條約であります、是は幸に今年の一月十五日に日本が會議から脱退致しましたので、先づ此問題は解消したやうであります、實はまだ残つて居ります。

其點を一寸申上げますが、實は軍縮會議は日本は前から英吉利、亞米利加が十、日本は六と云ふ比率で抑付けられて居る、是ではいけないから、此比率條約は止めなければならぬと云ふのが日本の主張して居る原則であります、此十、十、六の比率と云ふものは到底海軍としては承服することが出来ないと思ひます。

私共が十、十、六と云ふものを解釋するのは、是は簡單に申しますと、軍艦の数を十隻と六隻と云ふ風に考へてはいけない、海上の兵力と云ふものは艦の數だけで決して考慮されるべきものでない、

是は其攻撃力を以て比較しなければならん、即ち $10^3 | 10^2 | 6^2$ つまり $100 | 100 | 36$ と云ふ比率に考へなければならん、斯う云ふ風に考へるのが是が各國海軍共通の定義であります、そんな自乗比の法則なんて是は海軍の者が勝手に作ったものであらうと言はれるかも知れませんが、之に付て卑近な例を申上げますと、茲に十人と六人の人が居る、一人々々の力量は同じである、此十人と六人が互ひに殴合ひをする、野球のバットか何かで頭を殴合ひます、一人が十づゝ頭を殴つてもよいとすると、十人組の方は百發を六人の頭にあびせる、だから六人組は各々十六餘の打撃を受ける、之に反して六人組の方の攻撃力は六十發ですから之を十人に割ると一人が六發づゝしかならん、詰り十隻と六隻の軍艦で殴合ひをすると被害の割合は十六對六で、殆ど二乗の方則と同じことになるのであります、軍艦の致命傷は大體陸奥、長門などで四十センチの彈丸を五發か六發食ふと沈没する、所で假りにバットで十毆つたら死ぬと云ふ風に考へると六人組は十六づゝら毆れるから致命傷を受けますが、十人組の方は六發づゝでありますから生きて居ると云ふことになります、實際海上の戦でもそれと同じであります、片一方は全滅するが片一方は生きて居る、十對六の比率で命中率を百分の五とします、さうして軍艦の致命傷を五發と假定する、さう云ふ假定の下に計算しますと、十三分五十二秒で六隻の軍艦は沈没するが十隻の方はまだ八隻生残つて居る、斯う云ふ計算になるのであります、さう云ふ譯で

十對六と云ふ比率で戦すると劣勢の方はどうしても勝てない、だからさう云ふ不平等の比率條約は御免だと云ふのであります。

大體日本が軍縮會議を脱退した原則は吾々三つに考へられると思ひます、第一は平等の兵力でなければならん、新聞なんかでは共通の最大限度を定めると言つて居りますが、天井を作つて、それより餘計造ることはいかん、それより少い軍艦を造るのは勝手であると云ふ限度を設ける、平等均等の兵力、同じ兵力でなければならん、片一方が少くて、片一方が多いと云ふのでは劣勢側は國防上の不安を感じると思ふので、日本の第一の主張は平等で國防の安全をモットーとして居るのであります。

第二番目の主張は、今申しましたやうに共通の天井は作るが、此天上たるや高い天上でいかん、澤山の軍艦を銘々が持つて平等になるのでは不經濟であると云ふので共通の天井をウンと低くしよう、さうして思ひ切つて軍備縮少をやらう、さうすれば現在各國が負擔して居る軍備の半分以上を減すことが出来ると云ふのであります。

第三番目には、今申しました、低い天井で平等にするが、そればかりではいかん、各國の持つて居る兵力の中の攻撃に使ふ方の兵力を全廢しようと思ふのであります、戦艦、航空母艦と云ふやうな攻撃にばかり使ふ攻撃的兵力と云ふものはやめよう、併ながら防禦に必要な兵力は最少限度を持つ

て居らう、さうなると外の國を攻撃することが出来なくなる、結局戦争がやりにくくなつて、終には戦争を絶滅することが出来ると云ふのであります、日本では之を不脅威、不侵略の原則と言つて居ります、要するに、第三には攻撃的兵力を無くして戦争の絶滅を期すると云ふのであります。此三つの主張、経費を節約して戦争を無くし國防の安全を期する、是は公正妥當なる主張であると吾々は信じて居るのであります。

然るに此日本の主張に對して英吉利、亞米利加は全面的に反對しまして、いろいろ言つて居る、口實もありますが、今日は略しますが、結局日本の言ふことを聞かないのであります、併ながら日本はなんと言つても此原則を容れて呉れなければ此會議に繼續して参加して居ることは出来ないと云ふので脱退したのであります、其中には英吉利の提案で二つの案が出て居つたのであります、それは建艦通告案と質的制限案、建艦通告案條約、質的制限條約と云ふのであります。

建艦通告案と云ふのは、軍艦を造る四ヶ月前に、自分の國は斯う云ふ種類の軍艦を造る、長さが幾ら、幅が幾ら、噸数が幾ら、馬力が幾ら、速力が幾らと云ふやうなことを四ヶ月前に通告する、さうなるといきなり大きな軍艦を造ると云ふことがないから、各國とも烈しい競争が起らなくて済むのではないかと云ふのが英吉利の主張であります。

所が日本は之に對して不賛成である、何故かと言ふと、天井を定めなくて唯通告だけするのであるから、此方が通告する、向ふも通告する、どん／＼軍艦が殖える、限度が定まつてないから、それは軍備の制限にならなくて却つて競争を激化するものであると云ふので反對したのであります。

もう一つの質的制限と云ふのは、是は軍艦の性質を制限する、例へば戦闘艦は三萬五千噸以上のものはいかん、大砲は十六吋より大きいものはいかん、巡洋艦は一萬噸、潜水艦はどう、驅逐艦はどうと云ふやうに、一々制限するのであります、さうすると十萬噸と云ふやうな大きなものを造ることは出来ないから軍備の制限が出来ると云ふのが英吉利の主張であります。

是も日本は困ると云ふのであります、何故かと云ふと、銘々の國々が軍艦が同じやうに制限され、同じ性質になつてしまふ、同じ性質になると同時に天井が定まつて居ないから、あとは軍艦の数の競争になる、内容が同じであるから數で競争すると云ふことになるに定まつて居る、それとも一つは日本の如く割合に少い軍艦で對抗しなければならんやうな國、詰り餘り金のない國は、向ふが澤山造るのに對して、此方は自分の國の性質民族の習慣に適合した、且又地理上にも都合の好い、而も効果のある、さうして經濟的であると云ふやうな種類の軍艦で對抗しなければならん、率直に言ふと、潜水艦のやうなもので對抗しようと云ふ腹が一杯である、同時に軍艦は澤山造らないが、内容の非常に

充實した軍艦で、是が一隻あれば向ふのものは難倒すやうなものを造りたい、さう云ふことをやらな
いと日本の如き金の無い國はやりきれない、所が今のやうな制限があるとそれが出来ない、アツと言
はすやうな強いものを造る譯にいかん、是は貧乏國には非常に痛い點である、特徴のある軍備で對抗
することが出来ないからいかんと云ふので、二つとも日本は反対だと云ふことになつて遂に日本は脱
退したのであります。

其後で英、米、佛、伊が引續き此二つの條約を審議したのでありますが、其時に斯う云ふ面白いこ
とがある、英吉利はズツと前は倫敦條約で戦艦は三萬五千噸まで造つてよいと云ふことになつて居
つたが、英吉利は三萬五千噸は大き過ぎるから二萬五千噸にしよう、一萬噸小さくしよう、さうする
と約三萬圓軍艦一隻に付て安くなると云ふのであります、佛蘭西、伊太利は勿論當時日本も其主義
には賛成であると言つて居つたのであります。

所が亞米利加は承知しません、二萬五千噸ではいかん、どうしても三萬五千噸要る、亞米利加は太
平洋を控へて居るから三萬五千噸要ると云ふのであります、何故亞米利加が三萬五千噸要るか云ふ
と、元來亞米利加の作戦は、常に何時でも亞米利加が言つて居り、又計畫して居るのは、渡洋進攻作
戦、太平洋を乗切つて日本に来る爲には、どうしても亞米利加は三萬五千噸位の軍艦のやうな雄大な

行動半徑が必要になつて来る、サンフランシスコから東京まで四千五百哩、之を乗切つて来て戦争し
て猶且つ餘裕綽々として引揚げられるやうな行動力がなければならん、現在亞米利加の戦艦の行動
力は二萬哩と言はれて居りますが、其位の行動力は是非必要である、其爲にはどうしても、軍艦の中
に燃料倉庫などが澤山なければいけないから二萬五千噸では足りない、もう一つは太平洋を乗切つて
日本の沿岸に来ると向ふから攻撃しなければならん、日本の沿岸には砲台もあり、軍艦もある、さう
云ふものを撃破する爲にはどうしても大きな大砲を澤山持つて居なければならん、其爲にも二萬五千
噸ではいかん、どうしても三萬五千噸は要る、又太平洋の真中で戦をするのには小さい艦ではグラ
／＼していかん、さう云ふことのないやうに、耐波性のあるものでなければいけない、其爲にも三萬
五千噸は必要である、又日本の沿岸に来ると日本の潜水艦に攻撃されるから防禦力もしつかりして居
なければいけない、其爲にも二萬五千噸ではいけない、結局大洋作戦に必要な行動力、攻撃力、防
禦力、耐波力、斯う云ふものをスツカリ具備する爲には是非三萬五千噸は必要である、詰り日本を攻
める爲には二萬五千噸は小さい、是非三萬五千噸なければいけないと云ふのであります。

英吉利の主張は反対です、併し近頃の英吉利は亞米利加と一緒になつて日本を抑へると云ふことを
傳統的の國是にして居りますので、今亞米利加と意見が衝突して亞米利加を怒らしては不利である

と云ふので、年來の主張を抛つて、亞米利加の要求の三萬五千噸に看板を塗替へた、詰り大きな噸數の軍艦を造ることにしたのであります。

所が佛蘭西は反對です、佛蘭西は歐羅巴あたりで戦争をするのにさう大きなものは要らん、二萬五千噸で結構だと主張した、佛蘭西が反對すると英吉利は佛蘭西に對して厭味を言ふ、そんなことを言ふと英吉利は獨逸と仲好くするぞと言つて、イーデンと云ふ外務大臣が獨逸へ行つて耳打ちをする、佛蘭西はそれが氣味が悪くて遂に英吉利の言ふ通りになつたのであります。

最後に伊太利が言ふことを聞かない、三萬五千噸の艦を何隻も造るのはいかん、二萬五千噸でい、と言ふ、所が伊太利は當時エチオピアと戦さをして苦しい立場に在りました、それに英吉利が音頭を取つて經濟封鎖をやつて居つて、特に石油封鎖では伊太利は困つて居つたので、其邊を何とか緩和出來ないかそれが出來たら二萬五千噸も固守せないてなことをこつそり英吉利に言つたらしいが、英吉利は伊太利を呑んでかゝつて居りましたので、伊太利の言ふことを聞かない、それでムツソリーニはこんな馬鹿氣た三萬五千噸説には反對だと云ふので會議から脱退してしまつたのです。

それで結局此建艦通告案と質的制限案と云ふ二つのものは伊太利が脱退して、英、米、佛の三ヶ國で成立して居ります、成立して居りますが、其條約の後に但書が附いて居ると謂はれてゐます、それ

は、此條約は英、米、佛の三ヶ國以外の第三國が若し此條約の内容に違反するやうな場合には此條約は自然解消だと云ふのであります、吾々は洵に不思議に考へます、私は法律は知りませんが、苟くも契約と云ふものは其當事者、即ち英、米、佛に責任があるので、外の國がどうしたと云つて外の國に責任がある譯でないと思ひます。

所が英吉利、佛蘭西、亞米利加は、日本は條約から脱退して居るが、何れは日本獨特の軍備で對抗するであらう、それにはキツト大きな軍艦を造るに相違ない、さう云ふ場合にヒツカケやう、世界の平和機構である吾々が存在して居る軍縮條約、最後に残つて居る條約をぶち壊すものは日本である、日本が此内容に違反したことを以て是がなくなつたと云ふ、條約破棄の責任を日本に持つて行かうと云ふ魂膽であると思ふ、此條約はまだ残つて居るので是が日本に取つて禍するものではないかと思ふのであります、最近六月の末に此條約は調印が終りましたので、英吉利は日本に、どうぢや條約は出來たが、日本は途中で一月に會議から脱退したけれども、もう一遍條約に参加したらどうかと圖々しく勧誘して來た、それに對して日本からはハッキリと、あの條約は日本が脱退した理由が情況上何等變化なき以上到底參加出來ない、日本の原則を認めないやうな條約であるから參加出來ない、従つて其内容に付ては何等拘束を受けるものでないと云ふことをハッキリ申上げて置きますと云ふことを申し

送つたのであります、近頃の外交はキビ／＼して居て御同慶であります。がボンと刎ねたのであります。

もう一つ面白い事があります、それは今日の新聞にありましたが、今年の暮になると各國は倫敦條約で決めた通りの保有量にせねばならぬので、條約量よりも餘計持つて居る艦は壊さなければならぬ所が英吉利や日本は多少餘つて居る艦があるので、それを整理しなければいけない、そこで英吉利は伊太利、佛蘭西や獨逸（皆倫敦條約不加入國）がいろ／＼と潜水艦を造つて居るから年末廢棄すべき驅逐艦を四萬噸其の儘保有したいと云ふことを日本と亞米利加へ言つて來たのであります、是は前の倫敦會議の時に決めたのであります、若し狀況が變つて、或る三つの國の中で一國がどうしても軍艦を増さなければならぬ場合には増してもよい、其代り他の二ヶ國も増すことが出来る、之をエスカレーター條項と言つて居りますが、英吉利が四萬噸増したいと云ふのはエスカレーター條項を適用するのかと亞米利加が言つた所が、さうではない、自分の國だけ増したいと都合のいゝことを言ふ、亞米利加は、それはいけない、條約違反である、どうかエスカレーター條項を適用して貰ひたいと言つた、日本の返事はもつと痛快です、それは、英吉利が四萬噸驅逐艦を増すことはよからう、其代り日本も同じやうに廢棄艦を捨てずに保有する、但し何を残すかは日本の自由として保留して置く、是は本當を言ふと、お前の方で驅逐艦が欲しいから造る、向ふがエスカレーター條項を適用せんと云ふか

ら此方も適用せん、俺の方も勝手に造る、但し何を造るかそれは自由である、恐らく潜水艦を造るのでせうがそれは言ひません。

所が英吉利は氣味が悪くなつて、日本は潜水艦を造るのではないか、それはいかんと云ふので、それではエスカレーター條項を適用するから許して呉れ、エスカレーター條項に依つて英吉利、亞米利加は四萬噸造る、日本は、よろしい、それではエスカレーター條項に依つて日本は四萬噸の十分の七の軍艦を造る、但しそれは露西亞が最近浦鹽に潜水艦を造つて居るから、日本もそれに對抗する理由から潜水艦を造ると云ふ返事を出した、斯うなつて來ると英吉利は厭と云ふに違ひない、此邊まだ軍縮條約が残つて居るので一寸御紹介申上げた次第であります。

所で日本は會議から脱退致しましたので、亞米利加は非常に急いで軍艦を造り始めたのであります、もと／＼亞米利加は條約に依つて一〇、日本は六と云ふことになつて居ります、所が日本は其六だけ造つて居りますが、亞米利加はまだ一〇造つて居ない、上海事變當時の噸數を比較すると亞米利加が一〇とすれば日本は九・二あつた、其位の割合に亞米利加はまだ進んで居なかつた、亞米利加は今まで大きなことを言つて、軍艦を二十四隻造るとかいろ／＼大きな計畫をして、日本では相當心配して居つたのであります、亞米利加と云ふ國は面白い國でありまして、最初に全體の計畫を議會にか

て協賛する、そして毎年々々の経費は其都度協賛する。然も常に議會在がやかましく言つて年度計畫が遅延してゐたのであります、結局亞米利加は計畫だけ大きくて實際造るのは少かつたのであります。

そんな譯で滿洲事變、上海事件の時に亞米利加は口惜しくつて仕方がないが日本に對して殆ど一〇對一〇近くなつて居るので睨みが利かない、スチムソンなんかは度々日本の對支政策に文句を言つて來た、又亞米利加の艦隊がサンフランシスコから布哇まで出て來て日本を威嚇したが一向恐れない、満足に返事もしない、亞米利加の連中非常に口惜しがつて、内閣で日本に最後通牒をやると云ふ決議までしたのですが、亞米利加の海軍々令部で絶對反對した、今は到底日本には勝てないと云ふので絶對反對したのであります。

併し理窟から言ふと、一〇對九・二と言へばまだ日本の方が劣勢比率であるから負けるであらうと言はれるかも知れませんが、さう云ふやうな割合ではありますけれども、本當の實力は亞米利加は戰艦は澤山持つて居りまして是は完全に一〇あります、日本は六しかない、併し其手足になる補助艦艇、詰り巡洋艦、潜水艦、驅逐艦と云ふやうなものを合計すると一〇對九・二であつた、私共から言ふと本當の艦隊の戦闘能力はさう云ふ頭だけ大きくて手足がヒヨロ／＼して居つてはいけない、パランスが取れて居らなければいけない、亞米利加艦隊は頭ばかり大きくてヒヨロ／＼して居る、詰り片

輪です、日本は中肉、中背です、亞米利加人で英吉利に居る世界的海軍評論家パイオターと云ふ人は日本の艦隊は均勢の取れた艦隊であると言つて賞めて居ります。

従つて艦隊の戦闘能力を比較致しますと、總噸數は一〇對九・二であります、戦闘能力は日本の方が餘程強かつた、それで吾々は日米戦争をやつても勝算胸にありと確信を持つて居つた、それが亞米利加に非常に應へて、口惜しくて仕方がないと云ふので、ドン／＼軍艦を造つて居ります、今度は議會も眞剣にやり出した、亞米利加の議會と云ふものは軍備、それから國防の方針、さう云ふものに對して議會が責任を持つて居るのであります、今まで毎年々々の経費をいろ／＼削減した、それは議會の責任である、それではいかんと云ふのでドン／＼協賛して、いろ／＼質問して居ります、それでも大丈夫か、それで日本に勝てるかと云ふやうな質問をして居ります、飛行機は四千台でなければならぬ、同時にアラスカ方面に空軍根據地を拵へなければならぬが、アラスカと某々地との距離は幾らか、それだけで日本の東京が空襲出来るかと云ふやうなことを露骨に議員が言つて居ります、其位亞米利加は一生懸命になつて居るのであります。

亞米利加は昭和六年から今年の五月末までに一五三隻、四二萬噸の軍艦を造つて居ります、更に今年から十年計畫で五四隻、補助艦船と言つて軍艦でない特務艦を二二萬噸造る、それはどう云ふのか

と云ふと、飛行機を積んで行く航空機搭載艦、特務艦、運送船、さう云ふものを澤山造る、それから吾々が非常に興味を持つて居るのは、大きな千噸以上の曳船を造つて、日本近海で戦争して怪我した者を引張つて歸る、もう一つは布哇に五萬噸ばかりの浮ドックを造つて居りますから引張つて来て此邊に持つて来るのではないかと思はれますが、さう云ふものを計畫して居ります。

それから來年の一月から無條約になりますから、戦艦を新しく造り替へる第一著手として三萬五千噸の艦を二隻造る、それから巡洋艦も十二隻造る、いろ／＼考へますし、此儘で四年經つと完全に亞米利加は一〇、日本は六になると思ひます、現在日本としては之に對抗する爲に第三次補充計畫をやつて居ります、其内容は英吉利、亞米利加が非常に知りたがつて居りますので茲にハツキリ申上げかねますが、さう云ふ場合に對抗して負けないだけの準備を計畫して居るのであります。

もう一つ私共が非常に重大に考へて居りますのは、亞米利加が空軍をドン／＼擴張して、聯合艦隊が積込む艦載飛行機を現在亞米利加は千台持つて居りますが、それを五年計畫で二千台にすると云ふことでもあります、今の模様では今年の暮までには千三百台になるであらう、今年の暮に戦をするとしたら日本は幾ら位持つて居るか云ふと、日本は艦載飛行機は三分の一弱しかないので、先日も陸軍の方から航空に付てはお話があつたやうですが、近頃の海上戦闘に於ては飛行機が活動しないと本

當に勝目はないのであります。

其一例を申し上げますと、飛行機の上から大きな爆弾を落とすとか、魚形水雷を落して發射する、是は皆さんも考へられてゐる事だらうと思ひますがモット／＼重大な任務があります。それは何かと申しますと、私共が今の海上戦闘に於て一番大事に考へます、詰り勝敗を決する武器は大砲であります、大砲は魚形水雷と違つて早く飛びます、彈丸の速力は千六百ノット、一秒に八百米位飛びます、而もそれがドン／＼澤山矢繼早にとんで行きます、此意味に於て非常に偉力があります、さうして先程申上げましたやうに五六發當ると軍艦は沈没する、近頃の砲戦に於ては向ふより此方の彈丸を一秒でも早く命中させなければならんと云ふので、最初の彈丸が當るやうにする、即ち初弾命中です、以前の戦と云ふものは先づ目標に向つて初めに遠い彈丸を撃つ、二回目は近い彈丸を撃つ、彈丸が落ちると水柱が立ちますから、今のは遠い、今度のは近いと云ふので三番目に其中間に撃つ、是が定石であります、併しさう云ふことをして居りますとどうしても三十秒も四十秒もかゝります、其間に向ふの彈丸が落ちて來るかも知れない、一秒でも早く當てなければいけないと云ふので初弾命中と云ふことをやつて居ります、三萬五千メートルと云ふと九里以上もありますので、理窟から言ふと、其時の風の強さ、方向、大氣の密度、向ふの艦の速度、方向、此方の艦の速力、方向、それから其二三日

からの火薬庫の温度と云ふやうなものをいろ／＼計算すると必ず當らなければならん筈ですが、なか／＼それはむづかしい註文で、それが出来なければ砲術長をやめると云ふので一生懸命やつて居りますが、最近是非常によい成績になつて参りました。

所で三萬五千メートルも遠い所から撃つとなると、目標と云ふものは非常に小さいので、之に向つて四十冊の一發が一噸もある、それで一齊射撃をやると、七本も八本も木のやうに水柱が上ります、斯うなつて來ると、自分の弾丸が本當に當つて居るのか當つて居ないのか分りません、茲に於て結局向ふの目標と此方の軍艦の中間に飛行機を飛ばして、飛行機から見るとそれがよく分ります、觀測將校が見て居つてラヂオで知らず、此方では砲術長はラヂオの受信器を頭にし乍ら双眼鏡で目標を見て居つて、今の弾丸は百メートル近い、或は百メートル遠いと云ふラヂオを聴きつゝそれを参考にして弾丸を撃つ、それでなければなか／＼當りません、所で此方に飛行機が無くて向ふに飛行機がある場合には、向ふの撃つ弾丸は當るが、此方の弾丸は當らないと云ふことになります、それでどうしても砲戦を有効にやる爲には制空権を取らなければならぬ、是が大きな問題でございます。

もう一つは先程申しましたが、日本で一番頼みにして居りますのは潜水艦であります、潜水艦は日本人の國民性にピッタリ合つて居る、吾々は潜水艦に乗つたことがあります、小さい艦で大きな向

ふの主力艦のそばへ行つてドカーンと九寸五分で胸を刺すやうな氣持で、如何にも痛快であります、若い士官は憧れる、兵隊も希望する、潜水艦の希望者は非常に多いので嚴密に試験して乗組員を決定します、所が外國人は日本と反對に潜水艦を厭がります、獨逸は別ですが、亞米利加あたりで潜水艦を厭がると云ふのは無理もないと思ひます、狭苦しい所に六尺豊かな男が入るとやりきれない、私は五尺五寸五分ありますが、毎日五六週も頭を打ちつけ通して弱りました。中では煙草も喫めない、さう云ふ生活はなか／＼外國人では出来ません、日本は其點はよく出来て居ります、平氣です、平氣ではありませんでせうが、兎に角案外苦にしない、第一是は餘談であります、日本人の民族習性にピッタリ合つて居る、體質にも合つて居る、大きくないから都合がよい、さう云ふ譯で非常に希望者が多いのであります、亞米利加なんかでは非常に厭がつて希望者が少い、それで俵給を増したりやつと集めて居ります、厭々ながら來たのを訓練するのであります、私共は我田引水のやうであります、潜水艦こそは日本の頼みにする武器であると思ふのであります。

先年倫敦會議で、日本の潜水艦を亞米利加や英吉利は恐がつて居るので、當時日本と英吉利、亞米利加の三國會議でありましたが、英米が一緒になつて潜水艦を全廢しようと言ひ出した、其口實が癪に觸はる、潜水艦は戦時になると商船を撃沈する、商船には女や子供が乗つて居る、さう云ふ者を海

中に葬むると云ふことは残酷だ、そんな武器は文明國として止めやうではないかと云ふのであります。日本もさすがに其理窟には困つたが、日本の全權は、今日潜水艦をやめなければならんならば航空母艦も止めたらどうだ、航空母艦と云ふものは戦時になると澤山の飛行機を積んで行つて、其飛行機が敵都市の上空から爆弾を落とす、女や子供を殺すぢやないか、是は残酷であるから、潜水艦をやめなければならんならば航空母艦もやめやうではないかと言つたのであります、何しろ英米が一緒になつて非常に日本は困つた、それで當時七万八千噸の潜水艦を持つて居つたのに五萬二千噸に減して居るのであります、英吉利、亞米利加と平等にしたのであります。

今度の倫敦會議でも亦潜水艦をやめやうと言ひ出したのです、今度は三國ではありません、佛蘭西も伊太利も居ります、日本、佛蘭西、伊太利と云ふ國は潜水艦萬能の國でありますから、此三國が潜水艦はどうしても必要であると言つたので、今度は向ふの分が少くて負けて引込んだのであります、其位亞米利加は潜水艦が苦手なのであります。

此潜水艦が水中を潜航して行く、其潜航中は飛行機からよく見えます、是が困るのです、見えないやうに深く潜ぐると魚形水雷がうてない、それで潜水艦が活動する爲には上空に敵の飛行機を置いてはいかん、即ち制空機を取らなければ潜水艦の活動が出来ない、結局海上戦闘の弱みになるので吾々

としては非常に痛心して居る次第であります、これではいけない、何とかしなければならんと云ふので、現在日本の第三次補充計畫では航空隊を殖やすことになつて居ります。

もう一つ皆様が御心配になつて居られると思ひますので大事な點を申上げて置きます（此間速記中止）さう云ふ譯で、亞米利加の飛行機と云ふものは兎に角非常に計畫を進めて居ります、軍艦でも、飛行機でも悉く日本を目標にして居ります、其證據に最近亞米利加の軍令部總長のスタンドレーと云ふ人が斯う云ふことを言つて居ります、よく亞米利加の人が言ふのであります、或る議員が、近頃澤山軍艦を造つて居るが、そんなに要るのかと言つて居る、それに對して軍令部總長は、西太平洋に於て作戦する爲に十分なる軍艦が必要である、現在亞米利加が軍艦を造つて居るのは其爲である、西太平洋に於て作戦をするのに十分なる海軍と云ふのは、東洋に出て來て戦をする準備です、是は日本を目標とするより外にないのであります。

亞米利加は其位に致しまして今度は英吉利であります、英吉利も近頃は非常に刺戟されて段々準備を進めて居ります、私は今日海洋問題に付て結局〇〇の問題を言はなければなりません、外務省あたりでは〇〇〇〇の字も言つて呉れるなど言つて居りますが、非常に英吉利を今刺戟して居ります、此間獨逸の大使館附武官が軍令部に参りまして、日本で〇〇〇〇と言ふことは餘程氣を附

けなければいけない、英吉利國內では日本の○○進展を十分考へて居る、最近新嘉坡に世界第一の要塞を造つて居るが、是は日本の○○に刺戟されたのである、だから黙つてやつたがよいと言つて居りました、勿論吾々もよく知つて居ります、○○と云ふことは不言實行しなければならんと考へて居りますので、一般公開の席上では斯う云ふことは申上げないことにして居るのでありますが、皆様は指導的の立場に居られる方でありますからハツキリ申上げてよく諒解して頂きたいと思ふのであります、さう云ふ譯で、英吉利が乗出しましてドン／＼東洋方面に對する軍備を進めて居ります、新嘉坡、香港、セイロン島には強固な防備をやつて居ります、最近滑稽なのは、日本から出したデマであります、暹羅と日本が仲良くなつて、馬來半島の一番狭い所にクラと云ふ所がありますが、そこに運河を開くと云ふデマを飛ばした、所が英吉利がビツクリして、あそこに運河を拵へたら新嘉坡を通るよりも歐洲航路が五百哩近くなる、新嘉坡の繁榮をスツカリ奪ひ、軍事上にも影響すると云ふので英吉利はビツクリしたのであります、なか／＼クラ運河なんか出来るものでありません、三億かゝりまです、とても出来る心配はありませんが、それでも非常に心配して、クラの西にある馬來半島の或る王國の持つて居る島であります、之を買収して早速防禦工事をやつて居る、兎に角英吉利は非常に神経過敏になつて居るのであります、濠洲との間には緊密な航空路を造り、又イラクにも世界一大

きな飛行場を造つて居ります、ドン／＼／＼の準備をして居りますが、英吉利位今金を使つて居る國はありません。

現在英吉利の計畫では五年間に、日本の金にして四十億以上ですか、三億五千万鎊を投じて軍艦も殖やし空軍も非常に殖やして居ります、英吉利の立場になると、獨逸があり、伊太利があり、佛蘭西があるのでなか／＼／＼チヨットやそつとの飛行機では足りません、今世界中で一番飛行機を造りつゝあるのは英吉利で、今持つて居るのが少いから是れから非常に殖やす、一萬五千台にすると云ふのであります、飛行機の工場なんかは今二十四時間連続作業を續けて居ります、結局一生懸命やつて居るは何を目標にして居るか云ふと無論日本を目標にして居るのであります、時間がありませんから詳しいことを申上げませんが、英吉利は兎に角日本を目の仇にして居るのであります。

次は露西亞であります、是は陸上方面の事は陸軍の方から御説明になつたと思ひますが、吾々が關心を持つて居りますのは、浦鹽に於ける極東艦隊の再現運動であります、既に潜水艦を五十隻、小形水雷艇を百隻、驅逐艦を十隻、機械水雷を敷設する敷設艦が六隻、斯う云ふものを造つて居ります、今までは北洋漁業になると、日本の漁船が澤山出て居りますので日本の驅逐艦が行つて保護して居つたので日本の漁船は大威張で漁撈をして居つたのですが、今年になると、露西亞の驅逐艦が出て來て居る

私共はどうせ露西亞の驅逐艦だ録なものはないと言つては居りますがなか／＼馬鹿にはなりません。

それと、露西亞が斯う云ふ風に極東艦隊を再建した大きなバツクは英吉利であります、英吉利は獨逸に向つて歐羅巴では英吉利海軍の三十五%だけの海軍力を獨逸に許して居ります、露西亞に對しても三十五%だけ許して居るのであります、併しそれに但書がついて居ります、但し露西亞は英吉利の三十五%しか軍艦を造つてはいけませんが、極東方面では日本の出方に依つて如何に變更しても差支ないと云ふことになつて居ります、詰り歐羅巴では英吉利に對して三十五%であるが、極東方面では日本の海軍に對抗する爲に幾ら造つてもよいと云ふことになつて居るのであります、露西亞は佛蘭西と同盟のやうにして居ります爲に、歐羅巴方面に安心が出来たので極東露西亞の出方が亂暴になつた同時に英露の海軍協定に依つて又露西亞の鼻息が荒くなつたやうであります、此露西亞の海軍と云ふものは、申すまでもなく万一の場合には我が大陸派遣軍の後方を遮斷しようと思ふので、是が思ふ通りに出来ますと大陸の策戦と云ふものは非常に危機になると思ふのであります、さう云ふ譯で吾々は露西亞の出方を非常に重大に考へて居るのであります。

次は支那の問題であります、是は省略しまして、一體さう云ふ風に各國が軍備を充實して居るが亞米利加なんかはどう云ふ考を持つて居るかと思ふことを申し上げます。

今までは恫喝一方でありました、それではなか／＼日本は言ふことを聞かん、それで近頃はどうかと云ふと、唯黙つて居る、沈黙して居る、非常に異なつた現象であります、吾々は是こそ薄氣味が悪い、吠える犬は食ひつかんと言ひますが、露西亞のやうにワン／＼言ふのはまだよい方で、黙つて居るのは警戒を要する、刻々と沈黙して準備をして置いて、さうして、もう日本に對して大丈夫だと云ふまでに充實が出来た時に、始めて例の亞米利加の傳統的の政策である門戸開放、北支問題、滿蒙問題を提げて日本に喰つてかゝるのではないかと吾々は考へて居るのであります。

最近のフィリッピン問題なんか吾々の方でいろ／＼研究して居りますが、フィリッピン自體はなか／＼獨立が出来るかどうかわりませんが、經濟的にも怪しい國でありますから放任して置いては獨立はなか／＼出来ない、日本が援けるか、亞米利加が援けるか、どつちかしなければならぬ、今の所日本に對してはフィリッピンは反感を持つて居りますので、是が亞米利加に附くことになる、折角フィリッピンが獨立しても何にもならない、日本に取つては經濟的にも、軍事的にも非常に厄介なことになる、今の所フィリッピンは獨立しましたが亞米利加は海軍の根據地を此處に置いて居ります、更に東洋方面の太平洋防備制限條約が今年でできますから、更に此防備を強化する準備をやつて居るやうに吾々は想像して居るのであります。

此亞米利加の沈黙の準備と云ふことを忘れて頂かんやうに願ひたいのであります、吾々海軍としても非常に注意を拂つて居る次第であります。

英吉利は先き申しましたが、何と言つても日本に對して最も害をなす國ではないか、是は私が或る人から聞きましたのですが、四五年前に獨逸のゾルフと云ふ大使が外交官生活をやめて歸る時に、日本のある大臣に、自分は日本に對して非常に親愛の念を持つて居る、出來たら日本に死ぬまで居りたいが已むを得ず國へ歸る、については日本を去るに臨んで最後に忠告を申上げて置く、それは外でもない、英吉利と云ふ國をよく研究して頂けない、英吉利と云ふ國は自分の國に不利益だと思つたらあらゆる手段で以て相手の國を徹底的にやつける國である、現に獨逸はすつかりそれでやられた、今英吉利の前途を考へて見ると、英吉利の前に立ち塞がつて英吉利の將來を脅かすものは日本より外にない、斯う云ふことを英吉利はよく考へて居る、だから英吉利に對して注意なさいと云ふことをゾルフ大使が懇々と仰しやつたと云ふことを聞いたのであります、現在の英吉利は兎に角日本を唯一の敵として居る、私共はさう云ふ風に考へて居るのであります、支那の問題でも、露西亞の問題でも、蘭領印度の日本に不利益な態度でも、皆是は英吉利が手を廻はして居るのであります。

露西亞は、是は陸軍の方がよく言つて居られますから私が間違つた考を發表しては相済みませんが

實は今までは露西亞は日本を恐がつて居ると思つて居つた、所が近頃は準備が完成して、英吉利や佛蘭西が煽てるので段々恐日が侮日になつた、輕蔑になつた、ヘタをすると、なんだ日本が、と云ふやうなことから亂暴になつて、ウツカリすると日露戦争にならないとも限らんとすれば、今日本としては餘程慎重に考へなければならぬ、徒らに向ふの思ふ盡に入るやうな戦争をしては損であります、露西亞に對して強固なる準備を完成して何時でもやつて來いと云ふやうにして置けば段々露西亞も侮日の態度を改めるのではないかと思ひます。

そこで、段々時間が迫まつて参りましたので途中を略しまして、要するに軍備の重壓が日本に加はつて居る、片一方は政治上の重壓、亞米利加と英吉利が抑へやうとする政治上の重壓、現に英吉利の指導的立場に在る巨頭達、前の總理大臣のロイド・ジョージ、現在のボールドウイン、今の外務大臣のイーデン、スマッツ將軍の如きは英米提携論者でありまして、ロイド・ジョージなんかは、英吉利と亞米利加が提携して日本を抑へなければ世界の平和は保たれないなどと失禮なことを言つて居ります、之に對抗しまして亞米利加で英米提携の一番親方は上院の外交委員長のパットマンであります、是はもつと露骨に、日本はあらゆる條約を蹂躪して東洋に於て大陸政策をとつて居る、やがて亞米利加の實業家は支那から放逐されるであらう、是非日本の横暴なる大陸政策を阻止しなければならぬ

それが爲には英吉利と亞米利加が一緒に握手するより外にないと言つて居るのであります、兩方とも遠慮なくさう云ふことを言つて居ります、其他支那に對する英吉利の暗躍、佛蘭西と露西亞が一緒になる、英吉利と露西亞と一緒になる、英吉利と和蘭と一緒になる、唯是は經濟上の問題だとばかり思ふと大變な間違であります、日本が南進して濠洲と印度の間に突込んで來ることは英吉利に取つては堪へられない、之に對して蘭領印度に金を澤山注ぎ込んで居るので、蘭印が強腰になつたのは英吉利と和蘭との間に密約があると考へられて居るのであります。

斯う考へますと、政治上に於ても、軍事上に於ても、日本は方々から包圍攻撃されて居りますので是れでは經濟的に申ししても、人種上の問題から考へましても何とかしなければならん、そこでどうしても海洋に出て行かなければならんと云ふ結論に達するのであります。

私共の申して居ります海洋發展と云ふのは、單に南洋ばかりではありません、海の外に出なければならぬ、海洋に出ると云ふことは、海は無限の寶庫であると同時に輕便な鐵道である、唯一の交通機關である、之を支配して居れば日本は將來決して困らない、今までの歴史を見ても、海洋を利用した國は必ず榮えて居ります、反對に此利用を誤まつた國は萎縮して居る、和蘭、西班牙、葡萄牙は昔非常に繁榮して居つたのですが、皆海洋の利用を誤まつた爲に、目下西班牙の如きは立派な國とは言

へません、さう云ふ見地から言ひましても、外に出なければならぬが、其中でも最も大切なものは大陸政策と南洋政策であります、此二つは日本に取つては最も抵抗が少い、それから一番手近で容易であります、大陸政策の事は私共の領分外でありまして陸軍の方で研究して居りますが、從來の國策上なんと云つても引込むことは出来ない、經濟的にも、政治的にも、軍事的にも是非最後まで突込んで解決すべきであります、是ればかりでは日本の將來の發展、生存の維持と云ふことには満足ではない、私共は決して北守南進と云ふやうな言葉を使つたことはありません、それは或る爲にする人が使つて居るので、吾々は北と南の兩方は鳥の兩翼の如く並行して行くべきもので、どちらが缺けてもいけないと云ふ風に考へて居るのであります、どうぞ誤解の無いやうに願ひたいと思ひます、唯海軍としてはドシ／＼南方に出なければならんと考へて居るのであります。

然らば南進の目的とする所は何かと云ふと、第一に南方資源の利用であります。日本國內の國民生活に必要な原料、日本の産業に必要な原料、軍需の材料に必要な原料、斯う云ふ大事な原料が日本内地に於ては十分ではありませんので、滿蒙あたりから手に入れなければならぬが、それでも足らぬので之を南の方から入れなければならぬ、南の方をすつかり利用開發するならば日本に必要な原料が得られる、二番目にはいろいろの原料を安い運賃で手に入れて、日本國內の産業を盛にする、同時

に海外にマーケットを開いて行かふ、三番目には、それをやる爲にはどうしても海運、水産業、是がドン／＼進出して行かなければならん、四番目には日本の國內に餘つて居る勞力をドン／＼海外に進出させる、所謂人口問題の解決であります、移民の進出であります、五番目には、今申しましたものと一緒に日本の投資と企業が並び進まなければならん、要するに、日本の最も堅實な資力、最も豊富な勞力、最も優秀な技術、是れだけのものがすつかり南方に進んで行つて開拓すると云ふことは、日本の繁榮に資すると同時にそれが向ふの繁榮にもなるのであります、所謂共存共榮で、駭々たる經濟的發展は即ち南方進展であると云ふ風に言つて居るのであります。

そこで南洋發展策の第一項に數へます資源の利用と開發であります、是は私共畑違ひでおかしなことを申上げるかも知りませんが我慢して頂きたいと思ひます、資源の利用開發に付て最も大事な點は燃料問題の解決であります、御承知のやうに、日本の燃料問題と云ふものは非常に重大な問題であります、現在日本の國內で昨年の如きは二百三十萬噸の石油重油を消費して居ります、然るに日本の國內に出ます石油重油は僅かに二十萬噸しかない、北樺太石油會社から出ますのが二十萬噸、其會社が露西亞の會社から買つて入れて居るのが十二萬噸、つまり樺太方面だけで三十二萬噸しか出ませんそれから滿鉄の撫順のオイルセールが八萬噸、合計して六十萬噸位しか出ません、あとは外國から入

れて居るのであります、今二百三十萬噸と申しましたが、之には海軍の使つて居るのは含んで居ないそれから商船が外國で燃料を買つて使つて居るのも入つて居りません、さう云ふものを入れますと三百萬噸以上になると思ひます。

然るに戦時には艦隊が澤山の燃料を消費します、殆ど今の艦隊は石油ばかり使ひます、同時に陸軍でも自動車其他に使ふし、産業にも使ふ、交通機關にも使ふ、さうすればどうしても五百萬噸の石油が要るのであります、是が日本の手では出来ない、歐洲大戰の時に佛蘭西のクレマンソーが、石油の一滴は血液の一滴に等しいと云ふことを申しましたが、吾々としては非常な悩みであつたのであります、それで是れが代用燃料をいろ／＼研究して居るのであります、私は一度魚油で重油の代りにならんかと云ふので研究しましたが、魚油は重油と同じ効果があります、所が此魚油を十五萬噸一年間に手に入れやうとすると、日本人は皆鯛のソボロのやうな油の無い魚ばかり食はなければ十五萬の魚油は得られないので魚油問題は匙を投げました、其後海軍では石炭液化を研究して居りましたが、是はやつと出来るやうになりました、今の所滿鉄と三菱が朝鮮でやつて居ります、それと海軍の燃料廠の徳山等でやつて居るのであります、今の所十萬噸か十五萬噸しか出来ません、而かも高い、高いのは我慢しても量の問題で今急に燃料問題の解決には間に合ひません、又此頃日本で使ひますガソリ

ンに無水アルコールを二〇%混ぜる、其方が能率がよいと言つて居ります、所が百二十萬噸ガソリンを使つて居りますから二十%アルコールを入れると二十四萬噸、二十四萬噸のアルコールはなか／＼出ません、現在一萬噸しか出ません、田舎の著なんかで作る計畫もありますので洵に結構には違ひませんが、根本の問題は南洋油田の利用であります。

蘭領ボルネオのタラカンには毎年海軍の重油船が買ひに行きます、此處に一年に六百萬噸の産出があります、其他ジャバ、スマトラにも出ます、尙ほ調査に依りますと、セレベス、蘭領ニューギニヤモルツカ群島からも出ます、斯う云ふことを考へて來ますと、將來南洋をしっかりと握つて居れば燃料問題の心配はないと思ふのであります、何も南洋を日本が取ると云ふのではない、金を出して買ふのであります。

次に日本に最も大事な重工業方面から考へますと、鋼鉄を最近一年に四百萬噸使つて居りますが、此鋼鉄の材料にする鉄鑛が八百萬噸要ります、然るに現在鉄鑛は四百萬噸しか使用してゐない、あとは外國、大部分亞米利加から鉄及屑鉄を買つて居るのであります。昨年は一億五千萬圓買つて居ります、是れでは一朝有事の場合満足に重工業の維持は出來ない、所が南洋方面には鉄鑛が澤山あるので、現在日本に入れて居る鉄鑛の七〇%は南洋産であります、石原産業、海運會社が入れて居るのは

新嘉坡の北のジョホール、トレンガヌ、斯う云ふ所から入れて居ります、それから濠洲の北岸ヤンキサンド、是も五十萬噸入れる豫定です。又東岸のワイヤラと云ふ所からも入つて居ります、又フィリッピンのマニラの東岸のメンブラオと云ふ所からも入つて居ります、まだ／＼澤山出る所があります、ボルネオ、セレベス、ニューカレドニヤと云ふ所からも出る見込が確實です。斯う云ふことを考へますと、將來鉄鑛と云ふものは支那の大冶などをあてにしなくても南洋さへしっかりと握つて居れば無盡蔵に出ます、現在日本は滿洲、支那、朝鮮等の貧鑛を使つて居りますが、南洋さへ握つて居ればもつといふものが無盡蔵に手に入るのであります。

そんな遠い所から鉄鑛を持つて來ては運賃が高くかゝつて仕方がないとお考へになるかも知れませんが、海上の運賃は非常に安いのであります、陸上運賃の十分の一乃至二十分の一位でよいのであります、話に依りますと、横濱から東京までの陸上運賃と横濱からサンフランシスコまでの運賃が同じだと云ふことであります、其位海上の運賃は安くつくのであります、現に南洋方面の鉄鑛は一噸噸一厘で入れて居ります、亞米利加は國內に澤山の鉄鑛石がありますが、北の方の國境方面から出た鉄鑛をヒューロン湖を通つて鉄道でピッツバーグの精鍊所まで持つて來る陸上の距離が三百哩以上ありますが、それが日本が濠洲から入れて居ると同じ位運賃がかゝると云ふのであります、さう云ふこと

を考へますと、如何に亞米利加が國內に資源があると言つても餘り自慢にはなりません、日本の方が安くて安全に手に入ると思ひます、又將來性を考へますと、亞米利加でも英吉利でも段々鉄礦は山が見えて居ります、然るに南洋には無限に在るとすると日本と云ふ國は洵に恵まれた國であると言はなければならぬのであります、そこで日本の重工業は非常に多々益々將來性を持つて居ると云ふ風に吾々は考へるのであります。

もう一つは最近問題になつて居ります棉花であります、日本の纖維工業位近頃發展したものはない其大本は棉花であります、棉花は亞米利加から五億圓、印度から二億圓、其他埃及などから買はないければ買ふ所がない、従つて亞米利加の如きは八億圓も日本に品物を賣りながら日本からは四億圓しか買つて居らん、それにも拘らずいろ／＼文句を言つて、日本品を買はないとか何とか勝手なことを言つて居ります、併し日本もそんなら外から買ふと言ひたいのですが、外から買ふ所がないのであります、又どうしても斯う云ふものは資源を一緒にして置いては危ぶないので、資源分散主義に考へなければならぬと思ひます、さう云ふ意味から折角の南洋で棉花は作れないものかと研究して見ますと棉花は南洋に非常に適して居るのであります、ニューギニヤに日本の某會社が棉花の試作をやつて見たのであります、それに依ると非常に質の良い棉花が採れる、而も二度採れる、南洋は何處でもさ

うであります、或る所は三毛作、大體に於て二年に五毛作の農作物が出来るのであります、是は將來ニューギニヤだけでも亞米利加の棉花を驅逐する位は採れる見込があります、更に近頃暹羅と仲良くなりましたので、暹羅の奥地を研究すると、是亦非常に棉花に適して居ります、棉花と云ふものは風が強くてもいけない、害虫が居つては困る、餘り濕氣があつてもいけない、いろ／＼條件がありますが、ニューギニヤと暹羅は非常に是等の條件に適して居るのであります、暹羅は三原農學博士が調査されて折紙附になつて居ります、三原博士は暹羅の顧問になつて居ります、同時に山東省方面の北支那、滿洲、朝鮮でもやつて居りますから、將來は亞米利加や印度から頭を下げて棉花を買はなくてもいいことになると思ひます、埃及の如きは、日本に澤山の棉花を賣りながら、其十分の一にも足りない日本の品物を一切入れない、厭なら買ふなど言ふ、併し今の所は残念ながら埃及の棉花を買はなければどうしてもいけないさうです、何とかして代用品を作らなければならぬと研究中であります、此南洋發展策がうまく参りますと、數年ならずして米棉、印度棉を驅逐することが出来ると思ふのであります。

それからゴムは是は言ふまでもなく南洋でなければゴムは出来ない、ゴムの利用を多くやる國程産業上活動してゐる國であると云ふ位であります、最近日本はめき／＼ゴムの使用が進んで行きまし

て、今は世界第三位であります、英吉利、亞米利加に次いで居ります、將來多々益々必要になつて來ると思ひますが、是は南洋を利用し居れば決して心配はありません、もう一つは最近問題が起りました羊毛、人絹の問題であります、羊毛の殆ど大部分は濠洲から一億五千萬圓近く入れて居ります、然るに日本から七千萬圓位入れて居ります品物の中、人絹とか綿布などを入れないと云ふので、御承知の通り、濠洲に向つて通商擁護法が発令されて、もう羊毛は買はない、斯うなると、日本で又困る羅紗の原料が無い、それで南亞弗利加、ウルガイ、亞爾然丁などから入れやうとして居りますが、是も場合に依つては英吉利の息のかゝつて居る所でありますから油斷が出来ないのであります、現在羊毛國策と云ふ聲が起つて居ります、話に依りますと、滿洲、蒙古に綿羊を飼ふ、又日本内地にも綿羊の飼育を現在やりかけて居ります、私も前からははなんとか出来ないものかといろ／＼考へて居りましたが、鐘紡の津田さんの話に依りますと、大丈夫だと云ふことで、今やつて居るさうであります、今まではメリノ種と云ふ乾燥地帯のものを日本に入れた爲に失敗したので、今度はニュージーランドのコルデル種を飼育しよう、是ならば大丈夫だ、日本の農家が五百萬戸ある、それに三頭づゝ飼へば羊毛を外國から入れなくてもいい、二頭づゝ飼つて、滿洲、蒙古、それからニュージーヤに綿羊を飼へば大丈夫だと云ふのです。ニュージーヤの綿羊は非常に有望らしいのであります。

同時に綿羊の代用品として研究されて居りますのがステイブル・ファイバーであります、是は羊毛の代用品としてばかりでなく、人絹其者として日本の工業に重要なものとなつて居ります、人絹材料たるパルプと云ふものは大抵今まで大きな材木が使はれて居ります、樺太や北滿洲から入れて居りますが、是は一廻山を伐ると百年間経たなければ元の通りにならない、是から先ドン／＼使ふと無くなつてしまふ、今でも足りませんので北米や諸國、加奈陀等から材木を入れて居りますが、是れではない、さう云ふものゝ輸入を防いで將來性を考へる爲にはどうしても私共の考では、南洋方面には植物がよく繁茂するからいいではないかと考へるのであります、南洋木材ならば北の方の四分の一で元の通りになります、南洋は木材の點からも將來性があると思ひます。

もう一つは、一年で大きくなるものはないかと考へたのです、臺灣や南洋でやつて居ります砂糖黍の搾つた粕、是が皆パルプになります、それから臺灣に生えます鬼萱と云ふ大きな萱からもパルプの材料が取れます、最近には南洋群島でイチビと云ふ日本の楮に似た木であります、伐つてもすぐ芽が出る、是が何かにならないものかと今研究中であります、是も有望らしいのであります、パルプの材料になりさうであります、さう云ふことを考へますと、將來纖維工業がドン／＼發展して行つても決して材料に於て心配はないのではないかと思ふのであります。

もう一つは、重工業と同時に日本で非常に重大に考へて居るのは、軽合金、アルミニウム主體とした合金であります。是は飛行機になくてはならぬもので、近頃は軍艦にも使つて居ります。此アルミニウムが今まで日本國內では殆ど産出出来なかつたが最近ポツ／＼やつて居ります。それも滿洲や朝鮮あたりから出る貧鏽です。所が最近段々外國の原料を使つてやらうと云ふ傾向に進んで居ります。御承知のやうに、アルミニウムを精鍊するには強い電流が要りますが、幸ひ日本には水力電氣が澤山あります。今實際やつて居りますのは、臺灣に於て日月潭を水電七萬キロを使つて高雄に日本アルミナ會社が出来て居ります。是は原料のボーキไซด์を新嘉坡の南のピンタンと云ふ島から入れて造つて居ります。兎に角アルミニウムの精鍊が今日日本が計畫して居るのが完成すれば三萬三千噸のアルミニウムが内地で出来、現在日本の消費量が一萬五千噸でありますから將來は一萬八千噸餘ります。結局將來は日本はアルミニウムの輸出國になるであらうと思ひます。

所が幸ひに面白い事が出来ました。今までは貧弱な朝鮮や滿洲の原鏽や外國の原鏽を使はなければならなかつたものが、最近南洋群島のパラウ島、ボナベ島からボーキไซด์が出ることを發見したのがあります。朝鮮、滿洲のボーキไซด์はアルミニウム含有量が三〇%乃至四〇%、ピンタンのものが五八%で世界で一番いゝと言はれて居るのであります。然るに南洋で發見したものは三井の鑛山

で研究中であります。五〇%乃至六〇%と云ふのでありますから非常にいゝ譯であります。三井で之を手に入れて臺灣で工場を拵へて造るらしいのであります。此重工業、輕工業の原料が南洋から出ると云ふことは洵に吾々として喜ばしいことであると思つて居ります。

其他いろ／＼考へますと、錫でも、コブラの油でも、ヒマ油でも、是は飛行機の潤滑油になくてはならぬものであります。是が南洋に幾らでも出る、それからワニスとかコバルトとか云ふ塗料、亞鉛マンガ、考へて見ますと、有らゆる必要なものが悉く出る、斯うなると日本は誠に仕合せな國と言つて差支へないと思ふのであります。

所で今挙げました資源を日本が利用して國內に入れる、さうして日本國內に工業を盛にするとなると、是亦考へて見ますと、日本程工業と云ふ方面に於て恵まれた國はないと思ひます。それは日本に水力電氣が豊富にあることであります。現在日本で使ひ得る水力電氣は一十萬キロワットと言はれて居りますが、まだ三百萬キロワットしか使つて居ない、三分の二はまだ残つて居るのであります。一十萬キロワットの電氣を得ると云ふことは、石炭を焚いて電流を起すと一年に八千萬噸の石炭を消費しなければならぬ、日本に在る石炭は三百億噸ですから、一年に八千萬噸電氣の爲に消費して居ると日本の石炭はすぐ無くなりますが、水力電氣は幾ら使つても無くなるものではない、臺灣だけで五百萬キ

ロツト、まだ十分の一も利用されて居りません、それ程原動力は豊富にあつて而も安く手に入る、今民間で賣つて居るのは非常に高い、電力國營はなんと言つてもやらなければならぬ、それに日本人の勞力關係から考へましても、人間が多いので勞力は幾らでもある、而も技術は優秀である、又勤勉である、個人主義でない、而も工業組織と云ふものは家内工業を土台にして、勞資間の協調、時々ストライキがありますが、是は外國に比して雲泥の差である、のみならずいろ／＼の方面が合理化されて無駄がない、又纖維工業に就て申しますと、日本の氣候、溫度と云ふものは纖維工業に最も適して居る、其點だけでも英吉利は對抗出来ない、いろ／＼考へて見ますと日本と云ふ國は大體に於て暖帯である、寒帯でもない、暖房装置も冷房装置も無くて仕事が出来、日本位工業に恵まれた國は外に無い、従つて安く、物が出来るのは當然であります。

それに、之を賣る市場のことを考へますと、方々で品物を入れないとは言つて居りますが、何しろ支那、印度、南洋を一緒にすると十億の人口があります、世界人口の半分以上であります、十億の人口が日本の周りに待つて居るのであります、今でこそ不自然な制限をして各國は品物を入れんと言つて居りますが、結居安くて良い物は必ず賣れるであらうと思ふのであります、今は爲替が安くて日本は有利であります、爲替が上がつても日本の品物は安くて良いと條件は持続されると思ひます。

それと、日本の場所がいゝのと日本の海運と云ふものが非常に日本の工業に加勢して居ると云ふ風に考へて居るのであります、船舶の發展と云ふものは海軍に重大な關係がありますので、此意味に於ても海軍は南洋發展をドン／＼援けなければならぬと思ふのであります、商船は戦時補助艦艇として多數を使はなければならぬので吾々としては之を非常に重大に考へて居るのであります。

現在日本の商船は四百萬噸で世界第三位であります、第二位は亞米利加の一千萬噸、第一位は英吉利の二千萬噸であります、船舶數から言へば少い、併ながら其船舶が最も能率を擧げて居るのは日本であると考へて居ります、詰り自分の國の貿易品を自分の國の船が運搬して居る割合を考へますと日本は自國品を七〇%運搬して居ります、然るに海上王國と言はれて居る英吉利は六〇%より運搬しない、其他の亞米利加、獨逸、伊太利、佛蘭西などは四〇%乃至四五%しか自國の貿易品を扱つて居ない、従つて日本の商船が最も有効に働いて居る、繫船が少くて効果を擧げて居ると云ふ風に考へて居るのであります、私は日本の船乗位立派な船乗はないと思ひます、私は度々方々に出ますので日本の商船の厄介になります、日本の商船乗位しつかりしたものはない、責任觀念が強い、技術が優秀である、而も賃銀が安い、賃銀が安いのは商船ばかりではありません、日本は大臣から職工に至る迄皆俸給が安いのであります、世界中で日本の船が希臘の船の次に安くて、二番目が日本です、而も

日本の商船乗は非常に眞面目であります。

歐洲大戰の時に斯う云ふ話があります、當時各國の人は獨逸の潜水艦が歐羅巴で活躍して恐いものですから盛に日本の商船に乗つたものであります、詰り自分の大事な生命を自分の國の船の船員に安心出來ないで、安心して日本の船員の乗つて居る船に生命を託したと云ふのであります、其位日本の船員に對しては安心が出来る、それから日本の造船術の進歩と船舶建造の方針とが洵に都合よく行つて居る、いろ／＼の補助もして居りますが、外國あたりでは七八萬噸の大きな船を造ります、併しこんな大きな船は算盤が出ない、算盤なんかは第二としても、そんな大きな船は戦時に使つても何にもならん、運搬力があります、一發魚形水雷があたつたらすぐ沈んでしまふ、日本のやうな中形の優秀船が一番いゝのであります。

もう一つは、日本は近頃高速貨物船をドン／＼造つて居ります、是はいゝ着眼で恐らく日本は世界の海運界を引掻き廻すだらうと思ひます、此高速貨物船が亞米利加のパナマ運河を通つて紐育に行きサンフランシスコにも寄ります、速力が早くて運賃が安いと云ふので紐育からサンフランシスコ間を動く品物は日本の汽船に取られてしまつて、亞米利加の鐵道は上つたりで、亞米利加の横斷鐵道會社が破産したのは日本の汽船の爲であると文句を言つて居るさうであります、仕方がありません、優勝

劣敗であります、斯う云ふものが戦時には都合よく使へます、日本の海運こそは定石通りドン／＼發展して參つて居ると云ふ風に考へて居るのであります。

尙又日本の商船は世界の本當の檣舞台である太平洋の眞中に日本が在る、是が非常な強みであります、是は(圖示)倫敦から來る距離と、東京から來る距離と同じ所に線を引張つたのであります、是と同じ運賃でいゝのであります、所がなんと言つても向ふは高い運賃でありますから、實際は同距離でありますけれども、同運賃となると是が變つて來ます、又はスエズ運河を通つて來ますから運河の通行料を拂つて居る、もう一つの方もパナマ運河を通つて來ますから運河の通行料を拂ひますので又運賃が高くなる、だから同運賃の距離となるとつと變つて來ます、結局此南北亞米利加海岸から亞米利加の東海岸全體の海運と云ふものは將來日本の商船の獨舞台であるべきであると思ふのであります。

さうなると、四百萬噸の商船では足りない、又吾々海軍の方から申しまして四百萬噸では戦時に於て多數の補助艦艇が必要でありますので皆商船を引上げなければなりません、それでどうしても一千萬噸に増加しなければならんと云ふのが我々の主張であります、一足飛びにも出來ないので今度の國策としては六百萬噸にする豫定らしいございます。が追々は一千万噸になると思ひます。

更に面白い現象がありますのは、日本では古船を外國から買つてはいかんことになつて居ります、規則で古船を買ふことを禁じて居ります、所が日本の抜目のない人達が古船を買つて、日本の籍に入れないで支那の籍に入れる、支那の籍に入れて支那の旗を立て、居るが實際は日本船で日本人が乗つて居る、さうして支那の沿岸を安い運賃で活動する。是なら幾ら日貨排斥をやつても支那の旗を立て、支那の物を安い運賃で吸収するから支那人も大喜びで利用する。是が英吉利海運の領分まで喰込んで、英吉利の物を支那籍の日本船が運搬して居ると云ふ面白い事をやつて居ります。

御承知の通り、日本の輸出貿易は昨年始めて輸出超過でありましたが、大體に於て輸入超過であります、結局此儘進んで行けば向ふに金をやる方が多いので日本としては破産するより外ありませんが一向破産しないのは何故かと言へばそれは貿易外の収入があるからであります、其主なるものが運賃の収入で、昨年だけでも日本の商船が外國の商品を運搬した収入が二億五千萬圓あります、斯う云ふものがあるから入超を調節して居るものと考へます、今のやうに一千萬噸が活動すれば十億圓の運賃が取れる、益々日本は發展すると思ひます。

もう一つは水産業と云ふものを吾々は決して忘れてはいけない、日本の水産業は今申しました中で一番將來性があると思ひます、日本の漁船の数が全體で三十六萬隻と言はれて居りますが、其中發動

機船が五萬隻、而も其中に世界中を廻はつて居ると云ふやうな立派な、無線電信なんか持つて居るのが千隻以上あります、是が海軍の手足になります、日本の漁船数は世界第一で非常に飛離れて居ります、二番目が亞米利加の九萬隻しかない、大體日本の漁師は先天的の漁師で日本の漁師位大膽なものはないと思ひます、南洋あたりに居る漁師は皆赤禪に振鉢巻でやつて居ります。

私が先年南洋ウルシーと云ふ島に行つた時に四十噸位の船がやつて來ました、何しに來たのかと言ふとパラオ方面の漁場を調べに來たと云ふ、何處から來たか、マダガスカルから來た、亞弗利加のマダガスカルから四十日かゝつてやつて來たと云ふ、どう云ふ海圖を持つて居るのかと云ふとまるで小学校の掛圖のやうなものを持つて居る、洵に私も其大膽さに驚きました。

私はカムチャツカに一年居りましたが、彼の地の漁業の模様を見ますと、カムチャツカ半島から此邊まで入れると日本の約四倍の面積になりますが入口は僅かに四萬人しかない廣漠たる所でありますそこに、夏分になると日本の漁師が二萬人やつて來る、さうして其邊で立網で鮭や鱒を取る、御承知のやうに鮭や鱒は河の上流で孵化すると流れて大洋に出て數千裡を廻はつて四年目に元の所に歸つて來る、其海岸をつたつて歸つて來るのを立網で取るのでありますが、此漁が非常に盛でありまして年額六七千萬圓位舉げて居つたのであります。

所が段々露西亞人が欲しくなつて漁區に割込んで來て毎年漁區の入札をやる、露西亞人は向ふの政府とグルになつて高い入札をやる、どうしても日本の漁師に落ちないと云ふので漁區の入札が外交問題になつたのでありますが、其當時から、是ではいけない、海岸にこびりついて居つてはいけない、何とかして沖で取るやうにしようと思ふので、三漚出ますと是は天下の公海でありますから、誰が何をしようが文句は言へない、さう云ふ所で取らうと思ふので研究したのが最近實行に移つた所謂沖取漁であります、是は日本の漁師でなければ出来ません。

此沖取漁が段々盛になりまして、昨年は三千萬圓もカムチャツカ沖で取つて居ります、折角生れ故郷へ歸らうと思つてやつて來るのを沖で取つてしまふ、そこで露西亞は悲鳴を揚げて居るのであります、此間の新聞にもありました、日本の漁船が盛にロシア官憲に捕へられて居る、あれは三漚以内の領海で取つて即密漁だと云ふのであります、所が三漚と言つても何も標しが無い、問題を起しますので日本の驅逐艦が行つて保護して居りますが、三漚と云ふことはなか／＼完全に出来るものでありません、一寸氣が付いて見るすぐ領海に入つて居ると云ふやうな譯で度々トラブルが起る、日本の驅逐艦が飛んで行く、何しろ千漚にも達する沿岸で三漚沖をアチコチと走り廻はつてゐる警備驅逐艦の任務も大抵の苦心ではありません。三ヶ月も四ヶ月も海の上をウロ／＼して居るので、終には神經衰

弱になる、併しなんと言つても日本の産業發展の爲でありますから吾々は漁師さへついで來て呉れば何處までもやります、決して厭ひません。

此沖取漁と云ふものは恐らく此邊の魚を全部取つてしまふであらう、將來はなんとか魚族の保護と云ふことをやらなければならぬと思ひます、何れ來年あたりになればアラスカ邊まで沖取に出て行つて全部魚を日本の漁師が取つてしまふ、結局魚が無くなると云ふので、日露米三國で漁族保護、或る期間、三年とか四年とか絶対に魚を取らんやうにでもしなければいけないと思ひますが、無くなるまでにはまだ／＼間がありますので、尙是からも盛にやるであらうと思ひます、従つてまだいろ／＼問題が起ると思ひます。

南の方に於ても是と同じやうなことをやつて居ります、最早日本の漁師が行つて居る所は北はベリング海峽から沿海州、支那海、印度洋、亞弗利加沿海、地中海にも行つて居ります、東の方は亞米利加の海岸、亞爾然丁まで行つて居ります、濠洲の北岸のアラフラ海一帶は非常に淺い、三十尋、四十尋位で此邊からは眞珠が澤山取れます、日本船と共に英吉利と和蘭との船が巴となつて競争して居ります、此のアラフラ海の眞珠船のことを申しますと此邊には眞珠貝が澤山生息してゐます。日本の眞珠貝は阿古屋貝と云つて小さい色の黒いものですが、アラフラ海のは白蝶貝で眞白い綺麗な大き

な貝です、味も非常によろしい、大きいのは貝の殻がボタンの材料になります、是は上等でありますから日本には来ない、セレベスのマカツサルに持つて行き英吉利宛に賣れば一噸一千圓位です、一隻で三萬圓位賣ります、さうして大きな貝はボタンにし、小さい貝は生かして眞珠養殖の母貝にする、之をバラウやボナベあたりに持つて行つて御木本の出店や、三菱の養殖眞珠所へ持つて来て賣りますので之等の漁師はなか／＼相當の収益を擧げて居ります。

所が英吉利などは二百隻近くの眞珠船を持つて居りますが、三十尋と云ふやうな所で潜水作業が出来ません、従つて日本の漁師を傭つて居ります、所が近頃は段々英吉利の古い船を日本へ買取つて居る、恐らく是亦數年ならずして眞珠船は日本船ばかりになるであらうと思ひます。

所が困りましたのは、此漁師の發動機船の燃料が非常に高いものを和蘭から買はなければならぬ、食料もさうです、それで日本から母船で持つて来て、燃料も食料も安く供給しよう、取つた貝は母船に積んで日本へ持つて歸つて日本が加工して賣らう、さうしなければ損であると云ふことを考へつきまして、今日では母船が出来上つて居る筈であります。

所が此漁師達は眞珠船ばかりではありませんが、實に涙ぐましい程國家觀念が深いのであります、一體漁師に限らず日本人は外國へ行くと其距離が遠くなる程、遠心力と同じやうに愛國心が強くなる

のであります、如何がはしい人も外國へ行くと日本が非常に戀しくなる、怪しげな思想の持主は外國へ行つたらしい、外國へ行つて始めて日本の有難味が分るのであります。漁師は又特別です、外國で日本の軍艦旗を見ると例外無くポロ／＼涙を流す、それを見て居る方が又涙ぐむ位であります。

所では等の漁師の儲けて来る金は莫大なもので、是等は貿易外の収入でありますから、貿易表にも出してありませんしどの位あるか分りませんが大した金になると思ひます。

それから北洋の漁業であります、是も鮭でも蟹でも母船で罐詰にします、そしていゝものは倫敦へ送ります、紅鮭でも一等品は倫敦へ持つて行つて高く賣ります、所がカムチャツカでは冬非常に雪が多いので、冬の交通機關は犬橇しかない、馬橇ではいかん。それで銘々の家では犬を大事にします此犬の餌にする鮭を犬鮭と言つて居りますが、此犬鮭が母船に引上げられて罐詰になると是が北洋の鮭として日本に入つて来るのであります、一番いゝのは外國へ賣つて、日本では犬の餌を食つて居ると云ふ譯であります、さう云ふ譯で非常に莫大なものを外國に賣つて居ります。

最近實に痛快なニュースは、南氷洋に澤山の鯨が居りますが、捕鯨母船の圖南丸と云ふ一万二千噸位の船が行きまして、其船に大きな鯨を獲つて来て引張上げて油を採る工場があります、五隻の捕鯨船が圖南丸と一所に南氷洋に行つて去年の九月から五ヶ月ばかりの間に六百三十九頭の鯨を獲つて其

油が七千噸、全収益が三百万圓あつたと云ふことであります、それに味をしめて今年は皆行かうと云ふので岡南丸と同じ船を川崎造船所で造つて居ります、之に付ても面白い話がありますが、岡南丸と同じ式で二万二千噸の日新丸と云ふ船を英吉利に注文した所が十一月かゝると云ふ、それでは此年の漁期に間に合はん、何かして早く出来ないか、出来ないと言ふ、川崎造船所で造るとそれが七ヶ月で出来ると云ふのであります、今神戸で造つて居りますが九月には出来上ります、もう一隻行くのがありまして、今年には三隻行くさうであります、非常にいゝ商賣です、此調子ではこゝ四五五年間に南氷洋は日本の捕鯨船、日本の漁師に依つて占領されるのではないかと思ひます。

南氷洋では諸威と英吉利の捕鯨母船が二十五隻行つて居りますが、一年に平均四萬頭の鯨を獲つて居ります、収益約一億四千万圓であります、さう云ふものが遠からず皆日本のものになると思ひます、私共の考では世界の水産業は將來日本人が一手でやるやうになるではあるまいかと思ひます、世界で最も水産業に適して居るのは日本人であります。

然るに南洋諸島の海はまだく開拓されて居りません、是からドンく發展して行かなければならんと思ひます、眞珠ばかりでなく、鯨、鮪が非常に多い、鯨節は百五十萬圓ばかり南洋委任統治内から日本に入つて居りますが、あまり澤山入れると日本の鯨が安くなるので其程度にして、あとは罐詰に

して外國に賣ると云ふ計畫でやつて居ります、是もまだく多くなると思ひます、今までは規模が小さいので、暑い所で遠方に出られない、獲つたらすぐ持つて歸らなければならん、それではいかんと云ふので、南洋應あたりでも補助して製氷會社を造つて腐らないやうにする、燃料も大きなタンクを造ると云ふやうなことを今計畫中であります。

次には移民の問題であります、御承知の通り移民は幾ら出さうとしても外國で入れて呉れない、滿洲、蒙古は日本の陸軍で安全に保護して居るし、土地も相當良いと云ふので非常に有望のやうであります、併し是は澤山はいけない、將來は百萬人、二百萬人も行くやうになりませうが百萬や二百万では仕方がない、吾々は五千萬も六千萬も出さなければいけない、之を出すのはどうしても南洋の外にありません、滿蒙の移民は日滿の不可分の關係を造ると云ふ別の意味に於て必要であります、尙更らに人口の捌け口としては南の方に出すと云ふのが吾々の考であります。

南洋方面はどう云ふ點が移民に適して居るかと言ふと、非常に面積が廣い、南洋だけでも日本全體の四倍あります、濠洲を入れると數十倍になります、佛領印度を入れると更に大きくなる、是等の廣い面積が殆ど開拓されて居らない、人口は稀薄である、のみならず土地が非常に肥えて居ります、先程申しましたやうに、光と熱と濕氣が多いので温帯地方の四倍の成長力を持つて居ります、さう云ふ

恵まれた所であるにも拘らず殆ど開拓されて居らない、私共永らく居りましたが温度は九十度を越えたことがない、平均八十四五度位でありまして、常夏の丁度いゝ所であります、京都のやうに暑いことはないのであります、私が西伯利亞や南洋に數年居りました關係から考へて見ますと、日本位暑くて寒い所はないと思ひます、家の構造其他濕氣の關係もありませうが大體に於て日本は温度が非常に高い、さう云ふ點から考へますと、南洋は決して暑くない、いろ／＼の風土其他が日本人の生活に最も適して居ります、浴衣一枚あれば一年中暮せます、さうしていろ／＼の物がドン／＼出來るとなる、日本の移民をやるのに最も適して居るのではないかと思ふのであります。

同時に先住民族が居ない、或る場所には澤山居ります、ジャバあたりには非常に澤山居りますが、外の所には殆ど居りません、一例を申しますと、ニューギニアの如きは一平方キロに〇・五人しか居ない、日本は一平方キロに一七三人かと思ひますが〇・五人しか居ない、フィリッピンあたりは一〇人足らずです、ジャバ島だけは一平方キロに三二〇人も居ります、不思議な位集まつて居ります、ジャバだけで四千萬人居りますが、其位集まつて居つてもまだ生活の餘裕がある、いろ／＼の農作物が出來る、暮しも非常にいゝ、若しニューギニアにジャバと同じやうに入れるならば二億四千萬人入る其位入る餘裕があるのです。

もう一つは距離が非常に近い、滿蒙は別であります、大體に於て他の植民地と較べて距離が近い距離が近いと云ふことに付ては、是は私個人としての考であります、重大な意義があると思ひます、第一生命財産の保護と云ふことが何時でも海軍の手に依つてやり得る、滿蒙は別であります、南米のブラジル、アルゼンチンと云ふやうな所は海軍で保護しようとしても出來ません、然るにニューギニアの如きは距離が非常に近い、パラウから暫く行くと山が見えます、五百渾しかないのであります、斯う云ふ風に距離が近いと云ふと、移民の教育、宗教、衛生施設其他の連絡が洵に緊密であり得る譯でありまして、今まで南米や北米に行つた人は二世が皆日本語が話せない、日本語の話せない人に日本魂がある譯がない、さう云ふことを考へますと、近い所に居つて、教育其他の連絡をして置けば、南洋移民と云ふものは日本語の話せない二世と云ふやうな心配はないと思ひます、二世も三世も日本人として立派に生きて行けると思ひます、今までの移民は第一世だけで大抵消えて無くなるものと云はねばならん、今から四百年前に和寇と云ふやうな連中が勇敢に進出して居つた、或は山田長政が行つた、其時分には澤山の日本人が海外に出て居りました、然るに其時は日本の鎖國、英吉利、和蘭の壓迫、さう云ふ結果もありますが、實は是は女が行つて居ない、家族が行つて居ない、それで一代で無くなつて居ります、現在の移民は家族移民をやつても二世が言葉が分らないのでは昔の和

寇と同じである、さう云ふ移民ではいけない、吾々は日本國內に人口が多いから、吾々の同胞が邪魔になるから出て行けと云ふやうなことはしたくない、飽まで民族の移動でなければならん、今までの遺方は移民ではない、棄民である、人間を棄て、居るのである、其意味に於て近い所にいろく連絡をつけて日本人を澤山入れると云ふことは、民族の移動と云ふ意味から完全無缺ではないかと思ふのであります。

移民と同時に産業を興して原料を日本に入れる、其原料たるや日本の産業に關係の無いコーヒーなんかではいけない、コーヒーの値段が上らうが下らうが日本の内地には關係が無い、併ながら南洋方面で綿なら綿を作るとするとは日本國內の産業と切つても切れぬ關係になります、従つて若し綿の不作が出来たやうな場合には紡績會社が援けると云ふやうに、共存共榮をすることが出来る、さうすれば向ふの生産を盛にするから向ふの繁榮にもなる、向ふのものを輸入するから日本の物を外に出すことが出来る、蘭領印度の貿易制限、さう云ふことも調節することが出来る、多々益々此方も發展する、向ふも繁榮する、變な感情問題を捨て、移民を入れれば向ふの繁榮にもなると思ふのであります、尙ほ一例を申し上げますと、私はニューギニヤを廻はつたのであります、ニューギニヤの面積は四十萬平方キロ、日本は三十八萬平方キロ、日本より廣い、是は蘭領だけで、英領を入れると其倍にな

ります、日本より廣い土地に土民が十九萬しか居ない、土民と言つても戸籍もない、甚だ低級な者で十以上の數は分らないやうな連中です、斯う云ふものですから人口ではない、獸口と言つた方が適當かも知れません、而もそれを統治して居る和蘭人が何人居るかと言ふとたつた十三人しか居りません、そこで何をして居るかと言ふと何もして居ない、第一土人と云ふものは生産力が無い、自分で働かなくても食へる、いろく天然の野菜とか果物が豊富にあるので、金なんかには野心が無い、蘭領印度の方針はジャバだけの開發を終つて居りまして、ジャバは一キロ平方三二〇人と云ふ位に開發されて居ります、スマトラは南の方の三分の一しか開發されて居らない、鐵道は僅かにジャバの一部とスマトラの一部しかない、ボルネオ、セレベスと云ふのはやつとは是から始めやうと云ふので、到る處足の踏入れる所もない密林です、港附近だけにはアスファルト道路が出来て居ります、日本の觀光團が行つて港に入つて見て、いろく道路が出来て居る、よく開發されて居ると言つてビツクリして歸るのであります、それは港の附近だけで、一步奥へ行くと何もしてない、特にニューギニヤには全然手がついて居らない、自轉車の通る道も無い、さう云ふ風にうちやらかして居つて、それに日本人が入らうとすると入れない、是は一つ考へなければならぬと思ひます、日本は人間が多くて困つて居る片一方は人間が少くて困つて居るのに人を入れられない、而も無限の寶庫がある、それを何等開發しない

で死蔵して居る、斯う云ふことは人類文化の罪惡であると思ひます、ニューギニヤの如きは非常に涼しい、氣候の良い所でもあります、夜なんか毛布を着なければ寝られない、而も百花爛漫である、ダリヤでも菊でも、薔薇でも、百花爛漫と咲きます、而も詩のやうであります、世界で一番小鳥が多い、小鳥が囀り廻はつて居ります、實に是こそ天が日本に残して呉れた樂園ではないかと云ふやうな氣がしたのであります。

所が向ふは之を日本人の爲に開放して呉れない、と云つて武力に訴へて移民を入れさせると云ふ譯にも行かぬ、どうしても外交談判で行かなければならぬと思ひます、何と言つても今の問題は貿易品の入ることを制限し、移民に對しても一年に八百人までは入れてもいいと言つて居りますが併しそれには一人百五十ギルダの入國税を拂はなければならぬ、日本の金にして三百五十圓です、而も八百人とは言つて居りますが、實際に於ては殆ど査定しない、旅券を作つて呉れない、結局入れない、是はどうしても外交談判で言つて聞かしてやらなければならぬと思ひますが、外交談判と言つても是は奇術ではない、外交談判をやりますのには、立派なる、公正妥當なる主張政策と云ふものがはつきりして居なければならぬ、不正な政策ではいけない、もう一つは政策だけではいけない、實力がなければならぬ、看板が公正妥當なる正義を基礎にしたものであると同時に實力がなければならぬと思ふのであります。

であります。

吾々が口をすつぱくして申して居る南進策、大陸策は各々必要であるが、何と云つてもそれには實力がなければならぬ、實力があれば外交談判は非常に順當に進めることが出来ます、外交が順當に行つて南進策、大陸策が順調に行けば勢ひいろいろの發展が出来る、國力を充實することが出来る、さうなれば、其爲に必要な軍備に出す金と云ふものは無理をしなくても出来る、軍備は心配なく充實される、さうなれば日本の外交談判もドン／＼進展出来ると思ひます、結局我田引水のやうであります、南進策をやる爲にはどうしても日本の海軍々備が充實して、英吉利も亞米利加も日本に對して敵意を捨て眞から協調すると云ふことになれば外交談判もスムーズに行くと思ひます。

私共は軍備々々とやかましく言ひますが、戦争を望んで居るのでは決してありません、又戦争をせんが爲の軍備ではない、軍備さへしつかりして居れば、英吉利も、亞米利加も、露西亞も、決して戦争はしかけない、丁度上海事件の時に亞米利加が日本に戦を賭しても強壓政策を遂行しようとして事實出来なかつたと同じやうに、戦争を未前に防ぐことが出来るのであります、軍備は戦争を防ぐものである、戦争を防ぎ得ないやうな軍備では何にもなりません、苟くも軍備を備へる以上は戦争を防止するに足るだけの軍備でなければならぬ、中途半端な軍備なら寧ろ持たない方がいゝと思ひます、

従つて現在日本の東洋に於ける安定勢力として機能を發揮させる上に於て、亞米利加に勝手なことをさせない爲には、どうしても亞米利加に負けないだけの軍備が必要であります、其爲に日米戦争が防
止出来る、結局日米親善が出来る、同時に露西亞が盛に準備をやつて居りますが、此露西亞の戦意を
放擲させ日露戦争を未然に防ぐことが出来る、結局は是が段々進みますと日露親善も可能になる、即
ち日本の陸海軍の軍備が完全になると、日米戦争、日露戦争が防げると同時に日米、日露の親善にも
なる、残る所は英吉利であります、英吉利も吾々の考では、さう云ふ時代になればあの老獪な智恵
の多い國でありますから必ず日英親善に出て来るに相違ない、結局現在は軍備の負擔と云ふものは苦
しいけれども、之をやり通すと云ふことは將來の發展の基礎であると云ふ風に私は考へて居るのであ
ります。

長らく暑い時に無理に御清聴を煩はしましたのは恐縮でありましたが、吾々は今申したやうな考で
やつて居るのでありますが、唯此際皆様にしかと御認識を得て置きたいのは、南洋發展と云ふことを
先程申上げましたが、決して北の方は止めて、大陸策をやめると云ふのではないのであります、吾々
は大陸と南洋の兩方に進まなければならん兩方に進まなければならんと言ふと慾が深過ぎるかも知れ
ませんがさうしなければ完全でない、二つの中一が缺けても完全でない、鳥の兩翼、車の兩輪の如く

相並行して進まなければならんと思ふのであります、決して北守南進と云ふやうなことを考へて居る
のではないのでありますから、それをよく御認識して頂きたいのであります、御清聴を感謝致します
私のお話はこれで終ります。

369
50

昭和十二年三月二十五日印刷
昭和十二年三月三十日發行

發行者
京都府廳內
財團法人 京都府國防協會
右代表者

常務理事 中村國太郎
京都市下立賣小川東人

印刷者
中西勝太郎
京都市下立賣小川東人

印刷所
中西印刷合名會社

終

